

令和2年度 経営発達支援計画の自己評価（外部有識者の事業評価と見直し）

評価点数 4.5点（5点評価）

I 経営発達支援事業の内容

1. 経済動向調査

指摘事項	見直しを行った結果
景況調査は、市内経済の動向を把握する上で重要であり、長引くコロナ禍において施策の立案に非常に役立っている。次年度は、調査数を300事業者から100事業者となり、さらに詳しくヒアリングされることで、より活用しやすいデータとなることを期待します。	調査対象事業所を100社に選定（商業25社 製造業25社 建設業25社 サービス業25社）した事により、今まで以上に1社当りのヒアリングに時間をかけ、身近な地域の景況感の変化を正確に掴んで行きたいと考えます。
1.～6.すべての項目について、適正に行われている。	

2. 経営状況の分析

指摘事項	見直しを行った結果
事業者への巡回訪問を数多くこなし、Bizステーションの個別相談との連携による効果が各種の補助事業における高い採択率に繋がっている。引き続き効果的な取り組みを期待します。	内部環境分析だけでなく、アフターコロナを考慮した市場環境の変化等の外部環境分析にも注力して取り組む事で、今後の事業展開を小規模事業者の皆さんと一緒に考えて行きます。

3. 事業計画策定支援

指摘事項	見直しを行った結果
変化する経営環境に応じた内容のセミナーの開催など、事業者にとって有益な支援となっている。今後も先を見据えた取り組みを期待します。	コロナの影響もあり、セミナーは開催しにくい環境にありますが、WEBセミナーの形式も取り入れながら、計画に沿った事業経営の重要性を継続してお伝えしていく事と合わせ、個別の計画策定支援に引き続き積極的に取り組んで参ります。

4. 事業計画策定後の実施支援

指摘事項	見直しを行った結果
積極的な伴走型支援に取り組みされており、事業者の支えになっている。一方で、会員数も増え職員さんの負担もさらに大きくなるのが推測されるため、働き方改革の観点も取り入れた取り組みが必要と感じます。	特に対コロナ支援施策が目まぐるしく打ち出された2020年3月以降は、商工会の業務量はかなり増加しております。経営発達支援事業を核にした伴走型支援は丹波市商工会の中核業務であり、これを今後更に強化継続していく為、商工会事業全体の事業見直しにも取り組みます。

5. 需要動向調査

指摘事項	見直しを行った結果
<p>コロナ禍における調査は非常に困難であったと推察します。「にじいろタブレット」などへのアクセスの分析などwebを利用した調査なども考えられます。何らかの工夫が必要と感じ、また、調査結果の利用についても同様に感じます。</p>	<p>対面での調査は確かに感染対策という観点ではリスクが高く、調査方法の改善、対面聞き取りに代わる調査の実施方法を検討して参ります。</p>
<p>コロナ禍実施できたのは良かったが、113名からのアンケート実施及び事業者へ情報提供を行ったのであれば、事業者の反応まで検証してほしかった。</p>	<p>アンケート結果を提供した一部の小規模事業者の反応しか把握できておらず、確かに時間を掛けて行った調査の成果が確認できていませんでした。次回以降は提供した情報の評価についてもトレースしていきます。</p>

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業

指摘事項	見直しを行った結果
<p>コロナ禍で、事業者支援が優先された中での取り組みは、非常に困難であったと感じます。引き続き地道な取り組みに加えて、ポストコロナを見据えた新たな取り組みも必要と感じます。(妙案はありません…)</p>	<p>本年度についても、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながらの取組になります。リアルな商談会や展示会が積極的に開催される状況は望めない状況の中で、個者の有する商品、サービスに関する積極的な情報発信(にじいろタブレット等)により、その需要開拓を支援していきます。また、2000会員以上を有する丹波市商工会のスケールメリットを活かした、会員事業所間のビジネスマッチングにも取り組み、会員間に於ける『欲しい技術・欲しい商品』と『提供できる技術・提供できる商品』を繋いで行く役割を強化して参ります。</p>
<p>新たな取り組みが実施されていたのはよかった。</p>	

II 地域経済の活性化に資する取組み

指摘事項	見直しを行った結果
<p>コロナ禍においても、数多くの新規起業家を輩出している。Bizステーションと職員さんの連携が好循環を生んでいる結果であり、引き続き精力的な取り組みを期待します。</p>	<p>コロナ禍の中で当地を含めた地方への移住及び移住し事業を新たに起こされる方が増加傾向にあります。本年度は柏原中心市街地でオープンされた起業チャレンジショップとも連携し、より実現性の高い創業計画の策定とその実行支援に取り組んで参ります。起業される方にワンストップで利用しやすい相談窓口の強化に努めます。</p>

全てにおいて、概ね計画を達成されている。	
----------------------	--

Ⅲ 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組み

指摘事項	見直しを行った結果
課題を的確に把握され業務改善に取り組まれている。「経営支援システム」にもデータが蓄積されてきており、更なる効果的な活用を期待するとともに行政への施策立案への提言もお願いいたします。	毎日の相談内容を記録する「相談カルテ」と合わせ個人の定量・定性情報の蓄積も進めています。今後はこれらの蓄積したデータの有効活用を図り、小規模事業者皆様の経営課題解決に繋げて参りたいと考えます。
全てにおいて、概ね計画を達成されている。ただし、経営指導員の資質向上のための OFF-JT の実施や丹波市商工会独自の会員支援システムを活用し、業務の向上と情報の共有を行って頂きたい。特に、基準設定による取組みにおいて基準1や2が多すぎる。伴走型個社支援を行うにあたっては、基準3から4が対象となる（ことが想定される）ため、担当者の配置やOJTによる全職員の能力向上が必要である。 今後、現在の職員数を維持できるという確証はなく、人数を減らされたとしても現状のパフォーマンスを維持できるよう今から取り組むべきである。	職員数が減少する中で、一人一人の支援力の強化は必須事項であり、研修会・勉強会また日々の業務の中での資質向上に継続して取り組みます。 個人の裁量にゆだねられる部分が多い性質の業務で、標準化も難しいですが、できる部分は業務のマニュアル化を図り、経験の浅い職員が新しい業務にも積極的に取り組める環境づくりに注力して参ります。

全体を通じたコメント

◎新型コロナウイルス感染症拡大により、活動の自粛、計画の変更などが求められる中、活動可能な範囲において適正に運営されていた。

事業評価書について、計画（Plan）⇒実行（Do）⇒検証（Check）がわかりやすくまとめられていた。

◎全ての施策において、（一部コロナ感染症の影響を除く）目覚ましい成果があげられていると思う。

◎相互に各施策が関連、連携が図られていることもあり、各々施策のシナジー効果もできていると思う。

◎また、「にじいろタブレット」については、創業者や中堅企業も含め、「事業者目線でない第三者目線」での紹介がなされ、需要創出効果は高いと感じる。更なる効果、表出を目指し、掲載事業者増や掲載事業者情報の更新等を行うことも必要と考える。

◎起業者への施策の組み合わせ、複合支援等によるパッケージ型支援も効果的と考える。

◎令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大というかつてない状況の中、その影響により目標達成が困難になったものがあることや、事業者の対応にも苦慮したことが見受けられますが、一方で、Bizステーションたんばとの連携などにより、コロナ禍であっても目標を達成している項目や目標に近づけた項目があることは、大変評価いたします。

令和3年度においても、コロナ終息の見通しは立ちませんが、令和2年度での経験を活かし、目標達

成に向けて創意工夫していただきたいとともに、コロナ禍で事業者の商工会に対する期待はますます大きくなっていると思われますので、改善点やさらなる強化などに取り組み、事業者の支援を行っていただきたいと考えます。